

## **【15】 福島第一原子力発電所からの一部所員退避**

[報告書本編 8. 2 福島第一2号機の対応状況]

平成23年3月14日～15日にかけて、福島第一原子力発電所2号機が危機的な状況に陥った。また、15日6時10分頃、大きな衝撃音が発生し、2号機の圧力抑制室の圧力が0MPa [abs] (真空) を示した。これを受け、6時30分頃、社長が「最低限の人員を除き、退避すること」と指示を出し、発電所長が「必要な人員は班長が指名すること」を指示し、作業に直接関わりのない協力企業作業員及び当社社員（約650名）が一時的に安全な場所へ移動を開始し、復旧作業は残った人員（約70名）で継続することとした。

その際、当社が福島第一原子力発電所から全員を退避させようとしていたと、メディアで広く報道されている。実際はどうだったのか、真実が語られているはずの国会証言記録など、確認事実を、以下に示す。

### **【確認事実】**

- 当社が官邸に申し上げた趣旨は、「プラントが厳しい状況であるため、作業に直接関係のない社員を一時的に退避させることについて、いずれ必要となるため検討したい」というものであり、全員撤退については、考えたことも、申し上げたこともない。
- 3月15日4時30分頃に社長の清水が官邸に呼ばれ、菅総理から撤退するつもりかと問われたが、清水は撤退を考えていない旨回答している。
- 一方、5時35分頃、菅総理が東電の本店対策本部に来られ、「撤退はあり得ない。撤退したら東電は必ずつぶれる。」という趣旨を発言された。
- なお、菅総理自身が4月18日、4月25日、5月2日の参議院予算委員会において、それぞれ次の発言をされている。

#### **《4月18日菅総理発言》**

- ・ 「早い時間に東電の関係者から、私には大臣からですが、現地から退避をするといったようなことが伝わってきまして、そこで清水社長に来ていただいて、そのことについて、これは大変重大なことですので、社長にお出ましをいただいて話を聞きました。そしたら社長は、いやいや、別に撤退という意味ではないんだということを言われました」

#### **《4月25日菅総理発言》**

- ・ 「つまり、15日の段階で少なくとも私のところに大臣から報告があったのは、東電がいろいろな線量の関係で引き上げたいという話があったので、それで社長にまず来ていただいて、どうなんですと、とても引き上げられ

てもらっては困るんじゃないですかと言ったら、いやいやそういうことではありませんと言って」

《5月2日菅総理発言》

- ・ 「ある段階で経産大臣の方から、どうも東電がいろいろな状況で撤退を考えているようだということが私に伝えられたものですから、社長をお招きをしてどうなんだと言ったら、いやいや、そういうつもりはないけれどもという話でありました」

以 上